

Google広告を再開したのに表示回数が0のときのチェックシート

動画で解説した、見る順番の5か所と、サポートに伝える6つを1枚にまとめました。手を動かすときに、上から順に確認してください。

使い方 → 上から順に確かめて、確認できたものにチェックを入れます。チェックが付かなかった項目が、次に手を入れる場所です。

- 1

☐

準備1 出たくないキャンペーンを止める
一時停止になっていないキャンペーンを全部メモに書き出します。出たくないものは一時停止にして、メモの名前の横に「止めた」と書きます。
- 2

☐

準備2 予算を月の上限に収める
残したキャンペーンの1日の予算を全部足して、31をかけます。月に使ってよい金額より多ければ、どれかを下げます。メモに1日の予算を金額で書いておきます。
- 3

☐

1つ目 アカウントが止まっていないか
アカウントの状態が「有効」でなければ、止まっています。15か月以上、費用が1円も出ていないアカウントは、自動で利用が停止されます。数えるのは最後に費用が出た日からです。
- 4

☐

2つ目 支払いが生きているか
支払いの画面で、登録しているカードの末尾の番号と有効期限を、手元のカードと見比べます。未払いや、引き落としに失敗した記録がないかも見ます。
- 5

☐

アカウントが止まっていたら 再開の手続き
支払いを確かめてから、再開の手続きをします。書類の提出を求められることもあります。再開したら、止めたものが止まったままか、1日の予算がメモの金額のままかを見比べます。
- 6

☐

3つ目 キャンペーンの状態
「終了」は終了日を過ぎている。「保留」は開始日がまだ来ていない。「無効」は中の広告グループや広告、キーワードが全部止まっている。直す前に、広告文と予算を見ておきます。
- 7

☐

4つ目 審査・見せる相手・キャンペーンの種類
審査の「制限付き」の理由に健康などのデリケートな分野が出ている。見せる相手にカスタムセグメントを使っている。種類の名前がディスプレイではない。3つともそろっていたら、予算を確かめてから、カスタムセグメントと、自社の顧客やサイトを訪れた人のリストを外します。
- 8

☐

5つ目 キーワード
状態の欄に「検索ボリュームが少ない」が出ていないか。全部これなら、お客様が実際に打ち込みそうな言葉を足します。
- 9

☐

確かめ方
検索の広告は、自分で検索せず、広告プレビューと診断で確かめます。入札・予算・学習中は、ここまでを見たあとで見ます。
- 10

☐

サポートに伝える①②
① アカウントの番号。② いつ公開した、どのキャンペーンが、何日0のままか。
- 11

☐

サポートに伝える③ 自分で確かめた項目
アカウント、支払い、キャンペーンの状態、審査と見せる相手とキャンペーンの種類、キーワード。問題が無かったことを項目ごとに並べます。書き留めた「制限付き」の理由や、広告プレビューと診断の結果も添えます。
- 12

☐

サポートに伝える④⑤
④ アカウントを長く止めていた時期があること。⑤ Google側で、このアカウントの配信が止められていないかを確認してもらい、止められていれば解除してもらうようお願い。
- 13

☐

サポートに伝える⑥
止められていなかった場合に、Google側から見て、配信されない原因は何か、という質問。

気づいたこと・次にやること

止まっている場所が分かったら、そこだけご相談ください

株式会社GOENアーキテクト | 元になった動画の解説はYouTubeチャンネル「マーケティング専門書GOEN」をご覧ください。